

東京都立 多摩総合医療センター

着任のご挨拶

副院長 苅田 達郎



この度、4月1日付で、阿部和也副院長の後任として副院長を拝命いたしました苅田と申します。今まで当院の整形外科医として診療に携わってまいりました。医療関係者の皆様をはじめ、近隣医師会の先生方には、日頃よりご支援とご協力を賜り、改めて深く感謝申し上げます。

私は、旧府中病院が多摩総合医療センターに移転した2010年に東大病院から赴任しました。東京生まれの東京育ちの私が東京大学を卒業して整形外科に入局してからは、大学病院での臨床研修を皮切りに、三井記念病院での半年の麻酔科研修（心臓手術の麻酔までしました）、湯河原厚生年金病院（初めての一人暮らし！）、関東中央病院、再び三井記念病院、東大病院分院、日赤医療センターというように大学の関係病院を1～1年半という短期間ローテーションで臨床診療をしてきました。その後に戻った東大病院では最長連続勤務期間の9年間を過ごしました。当院で過ごした8年間は2番目に長い記録ですが、今回の人事異動で9年目に突入いたしましたので、最長期間を更新できればと思っています。ちなみに、大学院は世界最長生存の体外式人工心臓で有名な教室へ配属となり、医用材料の劣化の研究をしまして、その間はヤギの心臓手術と人工心臓を装着したヤギの世話に明け暮れていました。

さて、当院は以下の使命を担っております。①がん診療体制の充実、重症合併症をもつ救急患者受け入れ体制の強化、周産期医療の充実と強化、災害医療体制の強化、安全で質の高い医療の提供という東京都の医療政策への貢献。②地域医療体制の確保と充実。③専門性の高い良質な医療人材の育成などです。私に課された役割は、総合患者支援センター業務、医療連携、医療安全・医療事故対策、防火・防災・災害医療、救命救急センター運営、臨床工学室・MEセンター、診療材料部門、中央材料滅菌部門の運営管理、経営戦略、病棟運営、多摩メディカルキャンパスの機能促進など多岐にわたります。その中でも医療連携は重要な大きな柱の一つです。

あらゆる分野同様、運動器の各部位でも専門分化が進んでいて（私の専門は股関節ですが）、整形外科医の手術加療とブランド化を推進してきました。今までは、いわば限られた世界の利益を代弁して「unconscious bias：無意識の偏見」の中で過ごしてきたわけです。「無意識の偏見」とは自分自身が気づいていない物の見方やとらえ方で、無意識に生じる先入観や固定観念などの知的想起プロセスの一種といわれています。このようなマネジメントに影響を与えかねないバイアスを認識して、ダイバーシティーを尊重した適切な意思決定をしていきたいと思っております。

地域医療連携や在宅支援の現場で、皆様と密接なコミュニケーションをとりながら、実態を適切に認識して医療機能の向上に貢献したいと思っております。今後とも、より一層のご支援・ご協力とご指導をお願い申しあげまして、就任のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。





本年4月1日付けで、藤田看護部長の後任として着任いたしました上野でございます。近隣医師会の先生方、医療関係機関の皆さまには、平素より当院の医療連携にご理解・ご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。多摩総合医療センターでの勤務は初めてとなりますが、清々しい環境と人々の優しさをひしひしと身を感じている毎日です。

看護部門では、7年目となります共育セミナー、昨年度から始めましたピンクリボンフェスティバル等、地域の医療機関や地域住民の方との交流を深められる取組みを引き続き行ってまいります。また、認定・専門看護師による出張学習会のご依頼も少しずつ増え、少しでもお役に立てることができればと思っております。今後とも積極的に活動し、地域医療の質向上と協力体制の強化に貢献できるよう努めてまいります。ご支援・ご協力をお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます、挨拶とさせていただきます。



着任挨拶



平成30年4月1日付の人事異動により、医事課長を拝命いたしました山口と申します。平素より、近隣医師会の先生方をはじめ、医療関係機関の皆様には、当院の医療連携にご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

医療連携につきましては、皆様からのご支援、ご協力もあり、一層の強化を図ることができました。今後も、多摩総合医療センターは、多摩地域の高度急性期病院として、広域的な地域連携ネットワークを構築するとともに、地域の公立病院等と医師派遣・研修医受入等人材交流の促進に努めるなど、広域的な医療連携を充実させていきたいと考えております。

こうした取組を促進させるためにも、引き続き、地域の医療関係機関の皆様と良好なコミュニケーションを図り、地域連携のパイプラインとしてその役割を果たしていきたいと思っております。その際には、何卒、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます、挨拶とさせていただきます。

都立多摩総合医療センター 人事異動

【昇任】平成30年4月1日付
副院長

荻田 達郎

【昇任】平成30年4月1日付
心臓血管外科部長
診療放射線科部長
外科医長
産婦人科医長
救命救急センター医長

二宮 幹雄
興石 剛
大久保 嘉之
中村 浩敬
金子 仁

【転入】平成30年4月1日付
リウマチ膠原病科医長
輸血科医員

永井 佳樹
塚田 端夫

【院内異動】平成30年4月1日付
リハビリテーション科医長
救急診療科

松本 卓也
喜瀬 高庸

【採用】平成30年4月1日付
内科(神経・脳血管)医長
呼吸器科医員
循環器科医員
循環器科医員
精神神経科医員
外科医員
外科医員
外科(呼吸器外科)医員
整形外科医員
脳神経外科医員

阿部 新
矢野 光一
渡邊 真広
伊東 勘介
市橋 雅典
吉村 俊太郎
大片 慎也
中山 敬史
森田 友安
井林 賢志

産婦人科医員
リウマチ膠原病科医員
救命救急センター医員
麻酔科医員
産婦人科医員

櫻井 香織
内藤 昌志
鈴木 大聡
稲垣 翔子
本多 泉

【転出】平成30年4月1日付

副院長
リハビリテーション科医長
呼吸器科医員
外科医員
救急診療科

阿部 和也
東原 千恵美
川合 祥子
山崎 僚人
三好 雄二

【退職】平成30年3月31日付

麻酔科部長
検査科医長
外科医長
内科(神経・脳血管)医長
循環器科医員
産婦人科医員
リウマチ膠原病科医員
輸血科医員
外科医員
産婦人科医員
産婦人科医員
救命救急センター医員
呼吸器科医員
脳神経外科医員
精神神経科医員

肥川 義雄
江夏 一彰
清水 英治
齊藤 智成
小木曾 正隆
小澤 桃子
笠井 太郎
小嶋 明
根本 卓
羅 ことい
曾我 江里
光鏡 大裕
大橋 佳奈
本郷 博貴
福島 康浩





リウマチ外科・肩関節外来 のご紹介

リウマチ外科医長 肩関節外来 永瀬 雄一(左)
 リウマチ外科医員 整形外科外来 内藤 昌志(右)
 整形外科医長 辰巳 徹志



常日頃、お世話になっております。当院におけるリウマチ外科・肩関節外来について紹介させて頂きたいと思っております。

1. リウマチ外科：

関節リウマチ(RA)は関節破壊を主徴とする全身性の炎症性疾患であるため、全身の包括的管理と局所の関節炎の両者の管理が必須となっております。当院のリウマチ膠原病科・リウマチ外科は関節リウマチ患者さんを内科的、外科的側面の双方から包括的に管理できる日本でも数少ない診療科であります。様々な薬物治療が使用できるようになりタイトコントロールが可能になったRA診療ですが、今なお、RAによる骨破壊、関節変形で機能障害を来している患者さんは数多くいらっしゃいます。そのような症例に対して人工膝、股関節、肘関節、肩関節(リバーズ型を含む)、指関節、足関節置換術を行っております。また手指や足趾変形に対して、骨切り術や固定術を併用して変形矯正術を行っております。実際のメンバーは私(永瀬 雄一)と内藤 昌志先生がリウマチ外科籍で整形外科診療も行い、整形外科籍の辰巳 徹志先生も手の外科診療としてリウマチ手の外科の手術を行っております。

入院診療：

上述した部位の人工関節、手指、足趾変形に対する手術を行っております。特に破壊されたリウマチ肩は腱板断裂を伴っていることも多く、昨今までいい治療法がなかったのですが、原則70歳以上の症例に対しては2014年から日本に導入されたリバーズ型人工肩関節置換術を行い、優れた短期成績を学術集会に報告しております。また、足趾変形術に対しては関節温存をした中足骨短縮骨切り術や外反母趾手術(Scarf変法)で主に矯正をおこなっており、患者さんが踏み込む時の足趾の力が入りやすくなっています。手関節、手指変形に対しては変形矯正をしながら骨切り術、関節固定術、人工指関節を行い、機能回復も図っています。RAおよび膠原病の患者さんについては、入院中に必ずリウマチ内科医が副担当医となり、内科的管理も併せて行っております。



破壊された肩関節



リバーズ型人工肩関節術後

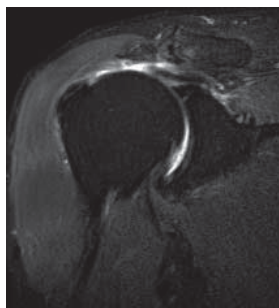
リウマチ外科の診療実績：

	手術実績		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
人工膝関節置換術	29	23	24
人工股関節置換術	7	7	13
人工肘関節置換術	5	5	4
人工肩関節置換術	1	1	8
人工足関節置換術	1	0	1
手の手術	3	6	17
足趾の手術	30	14	16
滑膜切除術	1	0	6
その他	7	8	19
合計	84	64	108

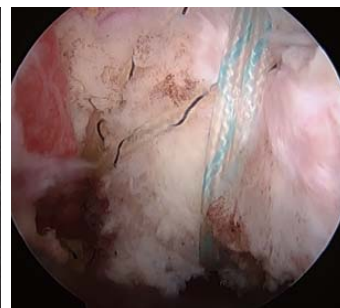
2. 肩関節外来：

当院では2017年度から肩関節外来を新設し、肩腱板断裂、反復性肩関節脱臼、変形性肩関節症、リウマチ肩に対して治療を行っております。

反復性肩関節脱臼、腱板断裂症例は原則関節鏡視下手術を行い、肩甲下筋や三角筋への影響を最小限にして、低侵襲で行っております。



腱板断裂のMRI像



関節鏡視下腱板縫合術後

肩関節の診療実績：

	2017年度 手術実績
関節鏡視下腱板縫合術	25
人工肩関節置換術(リバーズ型を含む)	9
関節鏡視下肩関節唇再建術(脱臼)	5
関節鏡視下関節包切離術(凍結肩)	2
肩鎖関節脱臼手術	2
その他	3
合計	46

3. 外来診療：

リウマチ外科としての外来は週2回(月曜日 AM/PM、木曜日 AM)に行っております。肩関節外来は火曜日午後に行っております。手術適応がどうか判断に迷うような症例も含めてご紹介いただければと存じます。近隣の先生におかれましては是非ご紹介頂きますように宜しくお願い申し上げます。



●● 公開CPCのご案内 ●●

顔の見える医療連携の更なる推進を図るため、これまで院内で行なっていたCPC（臨床病理検討会）に地域医療機関の先生方にもご参加いただきたく、ご案内させていただきます。是非ご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

毎月第3木曜日 午後6時～午後7時 4階401会議室

（都合により開催日を変更する場合があります。）

●● 各種講習会・勉強会のご案内（医療従事者向け） ●●



医療連携臨床懇話会

平成30年6月14日（木）午後7時～午後9時 4階401会議室

- 「膵がんに対する治療の進歩」 森田外科部長
- 「最新の血管外科診療」 保坂外科医長

※演題等に変更がある場合がございます。詳細は別途ご案内いたします。

●● 各種講習会・勉強会のご案内（患者さん向け） ●●

※参加無料、事前予約不要です



糖尿病講習会

会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト
日時：毎月第3水曜日 午後2時～午後4時

- 「糖尿病網膜症」「点眼薬を正しく使いましょう」「外食・宅配等の利用方法」
日時：平成30年6月20日（水）
- 「糖尿病腎症」「透析療法の実際」「腎症予防に向けての食事」
日時：平成30年7月18日（水）
- 「糖尿病のセルフコントロール」「糖尿病内服薬の飲み方」「糖尿病手帳の使い方」
日時：平成30年8月15日（水）
- 「糖尿病の内服薬」「糖尿病の運動療法」「嗜好品等について」
日時：平成30年9月19日（水）

※詳細はホームページをご覧ください。

当院は原則として、**紹介予約制**です。外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、紹介状をお願い致します。

ご意見、ご投稿、お問い合わせは
医療連携担当（内線2171）まで

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL：042-323-9200

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX：042-323-9205

緊急の場合…必ず事前にご連絡ください

代表電話：042-323-5111から、①平日の午前9時～午後5時は「〇〇科責任医師」、②午後5時以降、土曜日、日曜日及び祝祭日は「〇〇科の救急担当医」とお申し付けください。

連携医ホットライン：042-312-9119 月～土 9:00～20:00（祝日年末年始は除く）

連携医の先生方専用の当院医師への直通電話です。当日の緊急診療依頼にぜひご利用ください。

※一部の診療科では、夜間・休日は専門医がおりませんので診療できない場合があります。

※受診が決まった場合は、患者さんに紹介状（診療情報提供書）をお渡しください。

東京都立多摩総合医療センター 〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29
TEL 042-323-5111（代表）

